

ロピアHD、スーパーバリューを子会社化 取締役1人派遣

2022/7/15 19:32 | 日本経済新聞 電子版



ロピアHDがスーパーバリューの第三者割当増資を引き受ける

埼玉県などでスーパーとホームセンターを運営するスーパーバリューは15日、神奈川県地盤のロピア・ホールディングス(川崎市)に対し、第三者割当増資をすると発表した。ロピアはスーパーバリュー株の33%を持つ第2位株主で、増資によって保有比率が52%に高まり親会社となる。

8月31日を払込期日として、ロピアHDに1株952円で241万4700株を割り当てる。調達した22億円のうち、ロピアHDに対する私募債の償還に7億円、借入金の返済に5億円充てるなど財務改善につなげる。そのほか5億5700万円を投じて店舗運営に関するシステムを更新する。7店舗ではPOS(販売時点情報管理)システムのメーカー保守管理契約が終了しており機器更新を急ぐ。

発行価格は15日終値(1185円)に比べ約2割低い。有利発行にあたる可能性があることから、8月23日に臨時株主総会を開いて特別決議として諮る。ロピアHDの傘下入り後もスーパーバリューは上場を維持する方針。岸本圭司社長ら現経営陣も続投する。

スーパーバリューはロピアHDと資本業務提携も結び、ロピアHDから取締役1人を受け入れる。物流センターを両社で共同利用するほか、ロピアHDの生鮮品やプライベートブランド(PB)商品を

スーパーバリューの店舗に置く考え。スーパーバリューが運営するホームセンターの商品をロピアHDの店舗に供給することも検討する。

ロピアHDは2月にスーパーバリューの主要株主から株式譲渡を受けて大株主になっていた。5月の定時株主総会前にはロピアHDが業務提携を提案し、提携内容について協議を重ねていた。

スーパーバリューは15日、2023年2月期の最終損益が5000万円の黒字（前期は8億2900万円の赤字）になりそうだと発表した。従来予想（2億8500万円の黒字）から黒字幅が縮小する。チラシ販促をやめた影響もあって販売が想定を下回り、売上高を前期比3%減の696億円と21億円下方修正した。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.